

平成25年度事業報告

1. 基本方針

日本包装学会の目的は、学会会則にあるように、包装にかかわる各種材料、加工、機械、システム、製品、検査、流通、デザイン、心理、環境、社会等の科学及び技術の進展をはかり、もって学術文化の向上と産業の発展に寄与することにあります。

平成25年度は、これまでの活動実績を踏まえ、「社会の要請に応えうる開かれた学会づくりと、次世代包装人の育成」と「国際化の推進」に力を注いできました。平成25年度は大会を東京で行い、演題数56件、参加者は260名と大きな成功を収めました。同時開催のIPSでは中国、タイ、韓国から第一線の研究者を招聘し、国内講師1名を加えて各国の輸送包装に関する研究・開発の現状について紹介いただきました。さらに、シンポジウムの開催、学会誌の刊行(6冊)の他、学会HP充実による情報発信機能の強化も引き続き行ってまいりました。

2. 学会運営の経過

2-1. 第22回通常総会

日時:平成25年7月10日(水)

場所:東京大学 弥生講堂

議決権:出席者数 37、委任状数 175、有効議決件数 212

2-2. 理事会

第68回:平成25年6月6日	第一三共 品川研究開発センター
第69回:平成25年7月10日	東京大学 弥生講堂会議室
第70回:平成26年2月10日	第一三共 品川研究開発センター
メール審議:平成25年11月18日	日本包装学会奨励賞の新設について

2-3. 会長補佐会議

第75回:平成25年4月23日	八重洲倶楽部
第76回:平成25年10月7日	第一三共 品川研究開発センター
第77回:平成26年1月16日	メール審議

3. 各委員会の活動

3-1. 編集委員会

① 平成25年度の活動方針と活動概要

平成25年度は、日本包装学会誌Vol. 22, No. 2~Vol. 23, No. 1を、年間6号(隔月)発刊した。

② 委員会開催

135回	平成25年 5月 8日	八重洲倶楽部
136回	平成25年 7月10日	東京大学
137回	平成25年 9月17日	東京海洋大学
138回	平成25年11月11日	東京海洋大学
139回	平成25年 1月20日	第一三共株式会社
140回	平成26年 3月18日	第一三共株式会社

③ 学術雑誌「日本包装学会誌」の発刊

22巻第2号(平成25年 4月号) 第22巻第3号(平成25年 6月号)
22巻第4号(平成25年 8月号) 第22巻第5号(平成25年10月号)
22巻第6号(平成25年12月号) 第23巻第1号(平成26年 2月号)

3-2. 企画委員会

年4回開催(5月28日、9月30日、12月9日、2月6日)、シンポジウムの要旨集を見やすくする要望があり、カラー化を検討、カラー化に伴う参加費の改定を次年度に実施の見込み。参加者増加を目的に非会員の参加を促す方法を検討した。

(シンポジウム開催)

- 第61回 6月18日開催 「今求められる、食品長期保存技術とその包装の役割」
- 第62回 10月18日開催「医療安全・医療過誤への医薬品包装の役割」
- 第63回 2月28日開催 「包装分野における最新CAE技術」

3-3. 研究委員会

4つの研究会(バリア材料、輸送包装、青果物鮮度保持包装(MAP)、包装とユビキタスID技術)が活動しており、それぞれの活動状況は次のとおりである。

- ① バリア材料研究会 第19回バリア材料研究会を平成25年11月25日に王子・北とびあにて開催した。
- ② 輸送包装研究会 輸送包装ディスカッションを平成25年9月13日に大阪府立産業技術総合研究所にて開催した。
- ③ MAP研究会 研究会(講演会)開催のための準備を行ったが、講師の日程調整がつかず、平成26年度に実施することとした。
- ④ 包装とユビキタスID技術研究会 本年度は、見学会を企画したが、例えばJPRイノベーションセンターではRFIDの使用周波数帯の変更にもなう対応などがあり見学を実施することができなかった。次年度4月以降に順延して実施する予定である。
また、学会HPに各研究会の紹介ページを掲載した。

3-4. 大会運営委員会

① 本年度の活動方針と活動概要

日本包装学会第22回年次大会を、平成25年7月9日と10日の2日間にわたって東京大学弥生講堂にて開催した。参加登録者数 260名、年次大会は口頭発表35件、ポスター発表21件の盛況な大会となった。また、第10回国際包装セミナー (IPS '13)も同時に開催され、アジア各国の研究者と包装の研究開発について活発な討議が行われた。参加各位からの貴重なご意見・ご要望を踏まえ、第23回年次大会も有意義な大会とすべく準備を進めている。

② 委員会開催

第163回	平成25年5月14日	八重洲倶楽部
第164回	平成25年6月18日	八重洲倶楽部
第165回	平成25年9月17日	八重洲倶楽部
(以降 第23回年次大会準備)		
第166回	平成25年10月22日	八重洲倶楽部
第167回	平成25年11月12日	東京海洋大学
第168回	平成25年12月17日	東京海洋大学
第169回	平成26年1月14日	東京海洋大学
第170回	平成26年2月18日	東京海洋大学
第171回	平成26年3月11日	東京海洋大学

③第22回年次大会

会期:平成25年7月9日、10日

会場:東京大学 農学部 弥生講堂他

参加登録者数:260名

発表数:56件(口頭35件、ポスター21件)

第10回国際包装セミナー (IPS '13) 海外講師:3名、国内講師:1名

～Research & Development of Transport Packaging in Asia～

3-5. 広報委員会

- ① ホームページの改善を中心に活動した。
- ② 研究会活動紹介ページ、包装アーカイブス掲載ページを新規に作成し公開した。
- ③ メーリングリストのメンテナンスのため、不通となっている会員にアドレスの修正をはがきで依頼した。
- ④ レンタルサーバーを変更し、容量の増強とレンタル費用のコストダウンを図った。

3-6. 包装アーカイブス委員会

- ① 包装学会誌に6件を掲載した。
- ② 包装アーカイブス原稿依頼候補として、あらたに2名に作成依頼を行い掲載した。

- ③ 23巻1号をもって学会誌へのアーカイブス連載を終了した。(19巻3号—23巻1号、計25編、執筆者19人)

3-7. 国際交流委員会

- ① IPS'13「Research & Development of Transport Packaging in Asia」を実施し、学会誌23巻1号に特集記事として、講演された4件の内容を掲載した。
- ② 「海外情報」の学会誌掲載を継続した。
- ③ 国際交流委員会内規の検討を開始した。

3-8. 学会賞等選考委員会

- ① 平成25年7月10日東京大学弥生講堂において、平成24年度日本包装学会賞及び論文賞授賞式、並びに、平成24年度日本包装学会功労賞授賞式を行った。
- ② 学会賞等選考委員会および理事会における検討を経て、学会賞等授賞規定を改定し、奨励賞を新設した。
- ③ 平成26年3月31日にフォーラムミカサ エコ会議室において、学会賞等選考委員会を開催した。

- ・ 奨励賞の被推薦者について厳正に審査し、下記の授賞候補者を決定した。
川口和晃「輸送環境評価法および落下衝撃試験法の改善に関する基礎的研究」
- ・ 投稿論文について厳正に審査し、授賞候補論文を下記に決定した。
志水基修「段ボール原紙の赤外線放射率が段ボール箱内の内容物への伝熱に及ぼす影響」
- ・ 日本包装学会功労賞の授賞選考を行い、下記の方を授賞候補者として決定した。
伊藤 健一 氏

3-9. 財務委員会

- ① 平成25年度決算及び平成26年度予算(案)を作成をした。
- ② 毎月の財務状況を確認した。

3-10. 総務委員会

- ① 年次大会2日目(平成25年7月10日)に、第22回総会を開催した。
- ② 理事会、会長補佐会議の事務局として学会活動を運営した。
- ③ 理事会:平成25年6月、7月(総会后)、平成26年2月。
- ④ 補佐会議:平成25年4月、10月、平成26年1月(メールベース審議)。

以上のとおり、報告致します。

石川 豊	(会長)
椎名 武夫	(副会長・学会賞等選考委員長)
斎藤 勝彦	(副会長・国際交流委員長)
永井 一清	(編集委員長)
前原 隆	(企画委員長)
中嶋 隆勝	(研究委員長)
伊藤 健一	(大会運営委員長)
天野 勉	(広報委員長)
白倉 昌	(包装アーカイブス委員長)
古田 拓	(財務委員長)
牧 伸行	(総務委員長)
小宮山 美弘	(監事)
長谷川 淳英	(監事)